

卵塊ふわふわ

東雲高3年・多紀小4年

モリアオガエルを観察



モリアオガエルの卵塊に触れる児童＝丹波篠山市川原で

篠山東雲高校3年の学校設定科目「里山文化」を選択している16人と、多紀小学校4年生27人がこのほど、ささやまの森公園でモリアオガエルの観察を通して交流した。水面上にせり出した木の枝などに、粘液を泡立てて作る泡状の卵塊を産みつけることで知られるカエル。生徒や児童たち



モリアオガエルの卵塊を観察する児童や生徒

は、公園の山中のため池で複数のモリアオガエルやその卵塊を見つけ、触ったり、写真を撮ったりして学びを深めていた。里山文化は、里山の環境や文化、先人たちの知恵などを学ぶ同高独自の授業。多紀小は総合的な学習の時間で校区の自然を学んでいる。

講師は、同高の理科教師で、日本爬虫両棲類学会員でもある。さんが務めた。さんは、ソフトボール大の卵塊の前で、「泡の塊の中には2・5センチほどの黄色の卵が500個ほど入っている。でもこのうち大人になれるのは、3匹」などと解説し、「卵塊を触ってごらん」

と促した。児童や生徒たちは指先でそっと触れると、「ふわふわ」などと歓声を上げた。さんは全員がひとしきり卵塊に触れたのを確認し、「卵塊はカエルのおしっこでできている」と説明すると、今度は悲鳴が上がった。また、「雌は一回、卵を産んだら後は森に帰って過すが、雄は水辺に残って次の雌が産卵にやって来るのを待ち構えている」と解説すると、児童の

2024年6月30日

丹波新聞